

二年学年だより

No. 1

4月号

令和3年4月発行

2年学年主任

例年、始業式の頃に満開を迎える中央高校の桜も、3月末に満開となり、今では緑が目立つようになっています。新型コロナウイルス感染症の影響は、まだまだ落ち着かない状況が続いていますが、時は止まることなく刻まれています。皆さんにとってとても大切となるこの1年。君達はどう生きるのでしょうか。

先日、驚きと感動のニュースを耳にしました。池江璃花子さんの東京五輪出場権獲得のニュースです。皆さんもこの知らせを聞き、いろいろな思いを持たれたのではないのでしょうか。2018年、当時18歳の彼女はアジア大会で泳いだ8種目すべてでメダルを、そのうち個人種目4つを含めて過去日本人最高の6種目の金メダルを獲得。東京五輪の星と期待されるようになりましたが、翌年2019年2月に体調を崩し、医師に急性リンパ性白血病と診断されました。

その後、約10カ月入院し、12月に退院。競技を続けるどころか生命さえ危ぶまれた彼女がこれだけの短期間で驚異的な回復ができたのは、本人のたゆまぬ努力とそれを支えた人々のサポートがあっただけのことだと思われます。代表を決めたレース後のインタビューで彼女は『ただいま』という気持ちでこのレースに入場してきました。自分がすごく辛くてしんどくても努力は必ず報われると思っていました。』と泣きながら話していました。このことを知り、すごい、頑張った、だけでは終わらせられない感情が私の中で湧き出てきました。

彼女が病気を公表し、病気と闘い、回復していく姿は何度もニュースで取り上げられ、その度に発せられる彼女の前向きな言葉に逆に勇気を与えられ、彼女の一挙手一投足に注目するようになりました。復帰後、はじめてプールに入ったときの筋肉の落ちた身体に驚いたのもつかの間、2020年8月の初めての復帰レース以降みるみる回復していった体力、その後のレース結果にも驚かされながら注目を続けていました。東京五輪開催1年前のイベントでは全世界に「逆境から這い上がるには希望の光が必要で、希望が遠くに輝いているからこそどんなに辛くても前を向いて頑張れる。」と話したことはとても印象に残っています。代表決定の日の夜のスポーツニュースで彼女のインタビューがありました。復帰後、少しずつ縮めていくタイムを第2の人生の自己ベスト更新ととらえ、ひとつずつハードルを越えてきている。まだ世界と戦えるタイムではない。出場が確実に決まったら、東京オリンピックに向けてさらにタイムを伸ばしていくことを目標にすると次を見据えた姿が伺えました。

『努力は必ず報われる。』間違いないと実感しました。今回のニュースを聞くまでは『ただし、結果が伴うとは限らない。努力を続けていても戦う相手も努力を続けている。その中で結果を残すことができるのはごく一部の人間となる。でも結果が伴わないことがあってもその努力はその後の人生で必ずプラスになってくる。』そう思っていました。その考えは今も変わってはいないのですが、今回のニュースを聞いて『ただし』の後は『本当の努力ってどういうものだろう。』と考えるようになりました。厳しいトレーニングだけでなく、彼女がイベントで話した希望の光。辛さ、苦しさを前に進む力に変えるメンタルの強さ。今の自分をしっかりと受けとめ、状況に応じたスモールステップを確実に進めていこうとする気持ち。そして何より楽しみを見つけようとする心。これらすべてを含めた本当の努力が奇跡を起こすのであろうと思うようになりました。

新型コロナウイルス感染症は今後も油断を許さない状況が続きます。感染防止対策を続けながら高校2年生の生活を送らなければなりません。この状況の中でこの1年、君達が希望の光をしっかりと見つめながら行う本当の努力を見てみたい。どのような奇跡を起こすか。期待しています。